

写真のオクヤマ

活躍の場を拡げるカラーマネジメント液晶モニター ColorEdge

(株) 写真のオクヤマ
URL: <http://www.okuyama-photo.co.jp/>
●十和田店
青森県十和田市西三番町14-31
TEL: 0176-21-1515
●七戸本店
青森県上北郡七戸町字七戸220
TEL: 0176-62-2627



●写真のオクヤマ十和田店の全景

株式会社ナナオ
www.eizo.co.jp



文化財アーカイブ、新聞社でのCMSモニターの使われ方を見てきたが、今回は目先を180度変えて、青森県十和田市の写真館「写真のオクヤマ」である。ちょうど「七五三」真っ盛りの写真館業界なので、本当にお邪魔したという感じで申し訳なかった。それにしてもさすが青森の十和田湖至近、初冬といえども雪混じりのなかでの取材となった。

正直言うと今回の選択は全くのわたしの勘によるものである。実は2009年の9月に東北電塾*の勉強会講師として招かれ、その時会場になったのが「写真のオクヤマ」十和田店だったのである。そしてその十和田店の店長が奥山洋一さんと、物静かななかにもとても惹かれる部分のある方だったので、今回の訪問となったのだ。奥山洋一店長は日芸(日本大学芸術学部)写真学科を卒業し、当時スタジオでは最大手だった佐々木スタジオで働いていたのだが、家業を継ぐということで青森に戻ってきたということだった。この『プリバリ印』でお世話になっているカメラマンの廣瀬久起氏の大学&会社時代の先輩だという。廣瀬氏からの情報だが、奥山氏は大学時代には白鳥の写真で学部長賞を受賞(本人には未確認)など、よい噂ばかりが耳に入ってくるので、わたしの目利き以上の方であることは間違いがなかったわけである。

「写真のオクヤマ」の本店は馬の産地として有名な七戸町、奥山洋一店長(3代目)のお父様で、「(株)写真のオクヤマ」の社長でもある奥山俊介氏(2代目)が店長を務めている。七戸はイメージどおり歴史的な古い町だが、十和田市は北海道のプレ開拓村とも言えるところ、そこは新渡戸稲造で有名な新渡戸家が大きく関わる文明開化のニュータウンで、奥入瀬川が流れ、市立現代美術館や新渡戸記念館などの観光スポットが脚光を浴びている美しいエリアだ。青森県としては雪も少ないため、人口が七戸町1万9,000人に対して十和田市は6万6,000人と、最近では本支店の立場も逆転している。ちなみに十和田市はきれいな街並みや自然環境がそうさせるのか、写真人口も全国的に比べてかなり多いということだ。「写真のオクヤマ」の業務内容は多岐に渡っているが、単なる写真館と言うと、最近では

大手のM社やA社が圧倒的な力で勢力を伸ばしている。十和田市付近でも八戸市まで迫ってきており、「写真のオクヤマ」としては技術やセンスで差別化することが急務になっている。そこで大きな力になるのがEIZOのカラーマネジメント液晶モニターであり、高品質を要求される十和田店のデザインやレタッチ現場にはColorEdgeが、レイアウト確認にはFlexScanが配置され、合計11台のEIZOモニターがフル稼働している。ちなみにスタッフはアシスタントを入れ総勢5名が頑張っている。

それでは業務内容を箇条書きで紹介する。

1. 営業写真撮影

ウエディングから七五三まで幅広くニーズに応えている。十和田富士屋ホテル、まかど温泉富士屋ホテル内にも営業拠点を構え、妹さんである和田聖子氏が着付けを担当し、家族が一致団結して運営にあたっている(この辺もわたしが好印象を持ったポイント)。撮影現場の傍らには常にEIZOモニターが置いてあり、お客様も確認しながら撮影ができるという、デジタルならではの安心感で仕事をされている(お任せというのもプロ的だが、お客様にオープンなものデジタルのプロ意識だ)。



●印刷会社出身のデザイナーが手を入れることが大きな差別化ポイントになっている。モニターはもちろんColorEdge

2. 広告写真撮影

もともと奥山洋一店長にはお手のものだが、妹さんも日本写真芸術専門学校出身である。デジタル化にも早々に対応し、EIZOモニターともCRTからの付き合いで、カラーマネジメントを駆使して品質で勝負している。

3. 学校アルバム撮影

少子化で苦しいなか、様々な要求に応えている。

4. グラフィックデザイン

印刷会社のデザイン制作部門出身のスタッフがデザイナーとして頑張っており、差別化の強力ポイントとなっている。もちろんColorEdgeのCG242W、CG211が大活躍している。

5. 写真現像焼き付け

ミニラボ機フロンティアを使用しているが、単



●CG243WやCG222W完備のレタッチ室で心ゆくまでレタッチできる。お客様にも開放

なるDPEだけではなく、プリンターとしても使用している。お客様(ハイアマチュア中心)が最新のCG243Wで画像をチェックすることができるようになっており、スタッフの指導でレタッチ、RAW現像ができたりするキメの細かいサポートは、大手量販店にはできない芸当だ。

6. 写真材料販売

大手量販店に対抗してカメラ販売もしっかり

行っているが、なんとキヤノンEOS Kissなどの普及機より同EOS 5Dなどの中高級機が売れ筋とのことで、「写真のオクヤマ」のポジションがよくわかる。それにしても日本の富裕シルバー層の元気な顔が思い浮かぶ。またプリンター用紙などのパソコン用品にも力を入れているのは将来楽しみな点である。このようにお客様に見える&触れる場所でEIZOカラーマネジメント液晶モニターが活躍しているのだが、お客様のほうにもそのブランドは浸透しており、スタッフがEIZOモニターを使っている姿こそ、「写真のオクヤマ」の技術的な信頼にもつながっている。

(文責:郡司秀明)

*東北電塾:早川廣行氏を塾長とする、プロ写真家によるハイエンドデジタルカメラユーザー会「電塾」の地方組織。東北支部長は杉山親生氏。



●写真館は衣装が命、十和田店の3Fを七五三の衣装が占領している ●広げている着物は松田聖子ちゃんブランド、ほかに乙葉ブランドもある。きっとお母さんの好みも大きく作用するんだろうなあ?と推測 ●男の子用の衣装もしっかりあるのだ



●いつの時代も子供は最大のスター。確認用にはFlexScanが大活躍 ●その場で確認できるのがデジタルビジネスの特徴。御両親の笑顔を見れば満足度もバッチリ! ●新品カメラ販売だけではなくクラシックカメラも販売しているのが、老舗の心意気というものだ!



●奥入瀬川と八甲田連峰 ●十和田市の誇る市立現代美術館 ●写真のオクヤマ十和田店入口 ●右が奥山洋一店長、左が妹の和田聖子氏 ●店内風景。富士フィルムの業務拡張に合わせて化粧品や医薬品が並ぶ

●本稿の裏話はJAGATウェブサイト(www.jagat.jp)に掲載。